



方面	中隊長等集合訓練	(1面)
1師団	北海道訓練センター訓練	(3面)
12旅団	群馬県総合防災訓練参加	(4面)
1施設団	北方協同架設訓練	(5面)
関東補処	陸曹候補生選抜1次試験	(5面)

中隊長等集合訓練

作戦遂行能力向上をテーマに討議

方面隊は9月6日、朝霞駐屯地において第1師団及び方面直轄部隊の中隊長等集合訓練を実施した。

本訓練は8月に新たに上番した中隊長等22人に対し、中隊長等の職務遂行能力向上のため、東部方面隊を取り巻く環境、各種施策等、中隊長等として必要な識能を付与することを目的として実施している。

協同修繕「ミニTAKUMI」

各駐屯地が連携し勤務環境を改善

方面隊は9月中旬から下旬までの間、朝霞駐屯地及び新町駐屯地において、既存施設の修繕の場を活用した自隊施工「ミニTAKUMI」(タクミ)を実施した。

新生活・勤務環境の改善に資することを目的とし、方面管内駐屯地を10コのグループに分け、グループ内の駐屯地で相互連携し、駐屯地等の自隊施工を実施している。

新町駐屯地では9月20日から30日までの間に実施され、新町、相馬原、吉井の各駐(分)屯地が連携し、厚生センターの内装工事を行い、厚生関連施設の魅力化に努めた。

静岡県内各地で給水等支援

方面隊は9月26日から10月3日までの間、静岡県内において台風15号による大雨に係る災害派遣を実施した。

台風15号は9月24日に発生し関東や東北南部などで激しい雷雨となり、静岡市清水区などでは興津川の取水口に大量の流木や土砂が詰まった影響



浄水場取水口の土砂を除去する第34普通科連隊の隊員

は34普通科連隊、第1高射特科支援連隊、第1後方大隊及び東部方面後方支援隊である。



厚生センターの内装工事を行う隊員(新町駐屯地)

第7代方面隊最前任上級曹長に大久保准尉



第7代最前任に上番した大久保准尉



大久保准尉(左)と固い握手を交わす大久保准尉(右)



見送りを受ける第6代最前任 大平准尉

方面隊は10月3日、朝霞駐屯地において東部方面隊最前任上級曹長交代行事を実施した。第6代東部方面隊最前任上級曹長 大平准尉は総監部付となり、新たに第7代東部方面隊最前任上級曹長として大久保准尉が上番した。大久保准尉はこれまで第34普通科連隊最前任上級曹長、第1師団最前任上級曹長等の要職を歴任している。

大平准尉はこれまで旺盛な責任感と熱意溢れる指導により方面隊の任務遂行に寄与した。特に人材育成の面においては、新隊員教育を始め各種教育入校等の現地指導を積極的に行う等熱意をもって取り組み、より良い隊員の育成に尽力した。下番するに当たり「組織で戦う自衛隊には隊員相互の信頼が何よりも大切である。先輩は後輩に対し、親愛の情を持って、強く優しく、時には厳しく育成するとともに仲間を信頼し、指導することが重要である。各人は崇高な使命を自覚して日々の教育訓練に精励して欲しい。隊員一人一人が努力を続けることが、強靱な東部方面隊の創造に繋がるものと信じている」と述べた。

大久保准尉は上番するに当たり「大平准尉から重いバトンを引き受け、光栄であるとともに大変身の引き締まる思いである。今後は各部隊の現場に積極的に進出し、隊員とのコミュニケーションを図り、皆のパイプ役として隊員の思いを総監に伝えていきたい。強靱な東部方面隊を創り上げるためにはわれわれ下士官(准曹士)が要である。皆の先頭に立って頑張っていきたい」と所信を述べた。

東桜会中部方面区研修

機動旅団・海上自衛隊の理解を深化



善通寺駐屯地での記念撮影



装備品の見学

方面隊は9月26日から28日までの間、東部方面隊東桜会中部方面区研修を実施し、善通寺駐屯地（香川県）海上自衛隊呉



輸送艦「おおすみ」艦内を見学する東桜会会員

基地、江田島地区（いずれも広島県）等を訪れた。今回の研修は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、4年ぶりの他方面区研修となった。初日は第14旅団司令部が所在する善通寺駐屯地において、第14旅団長による機動旅団の役割と意義等について説明を受けた後、16式機動戦闘車等の装備品研修や資料館（乃木館）見学、第14音楽隊による演奏鑑賞等を行った。また金比羅宮等の史跡研修も行い、歴史ある四国の地を隊区として活動する第14旅団の特性をより深く認識することができた。

2日目は呉基地を訪れ輸送艦「おおすみ」を見学した後、交通船に乗船し江田島地区に移動した。江田島では第1術科学校教育参考館及び幹部候補生学校校舎を各学校長等の案内により見学した。その後、呉基地にもどりの呉地方総監との懇談が行われ、海上自衛隊の教育・伝統と任務・運用について理解を深めた。最終日の3日目は海上自衛隊呉資料館「つづみ

気象庁火山観測支援 関係機関との連携を強化

方面隊は9月30日、三宅島において気象庁による火山観測を支援した。本支援は気象庁の三宅島における火山活動の評価に資するため、第1飛行隊の航空機を用いて山頂周辺における熱映像撮影及びデジタルカメラによる可視画像撮影の支援を行った。

当日はヘリコプター（UH-1J）で、三宅島の海岸線外側から徐々に頂上付近に近づきながら観測を実施した。方面隊は島嶼部を含む広大な地域の防衛警備、災害対応を担っており、今回観測した三宅島も管轄している。各種災害発生時には、迅速な情報収集・対応が必要であるため、平素からの各関係機関との連携強化は極めて重要である。

方面隊は今後も各種支援等、あらゆる機会を通じて、関係機関と緊密な連携を推進する。



UH-1Jから火山観測する気象庁職員

ネイリスト技能講座 検定合格目指し、ネイルアートを学ぶ



集中してネイルアートを学ぶ参加隊員（右）



講師の説明を受ける参加隊員

方面隊は9月7日から29日までの間、朝霞駐屯地において部外講師を招いて、令和4年度部外技能訓練「ネイリスト技能講座」を実施した。退職予定隊員の再就職活動の一助として本訓練は実施されており、公益財団法人日本ネイリスト検定試験センターが主催するネイリスト技能検定3級に合格し得る知識及び技能を修得させることを目的としている。

参加した隊員は「講師の方から分かりやすく説明があったが、技能検定3級を受けられるレベルに近づいたと思う。帰隊後も検定合格へ向けて自学研鑽に励みたい」と語った。

級に合格するためには、ネイルケア及びネイリストに関する基本的な技術及び知識の修得が求められる。このため基礎理論と実技による基本技術に関する内容を中心に講義が行われた。

広報センターイベント 音楽演奏、体験試乗を楽しむ



演奏に合わせて手拍子をする来場者



記念撮影をする来場者

くじら館」及び呉市海軍歴史科学館「大和ミュージアム」を見学し、戦前の海軍や海上自衛隊の歴史を学び全日程を終えた。参加した会員からは「第14旅団長、海自の各隊長及び呉地方総監が衛隊への理解を深めることができ、しっかりと守っていることを実感し、深い感銘を受けた」と所見が述べられた。

は第12音楽隊が担当し「君の瞳に恋してる」や「日本の情景『秋』」など、幅広い世代が楽しめる計7曲が演奏され、約150人の聴衆が生演奏を堪能した。聴衆からは「時間が過ぎるのを忘れてしまった。機会があったら、ぜひまた聴きにきたい」との感想があった。

高機動車の車両体験試乗は第1普通科連隊が担当し、約200人が駐屯地内の約2キロのコースを楽しんだ。大半の参加者が初めての体験試乗であり「貴重な経験ができて楽しかった。また乗りたい」等、大変好評であった。

広報センターでは今後も多数の各種イベントを準備し、より多くの方々が来場していただけることを期待している。

お知らせ

陸上自衛隊広報センター（のりくんランド）は館内の感染対策が徹底され、また社会全体としても新たな生活様式（消毒やマスク装着等）が定着しているため、事前予約制を廃止しました。

思い立ったが吉日！ お気軽に乗り越えてください♡

第1師団

V 目標奪取！HTC運営開始以来初 第34戦闘団快挙！



対機甲戦闘をする第32普通科連隊(配属部隊)



徒歩行進をする第34普通科連隊



統裁官(師団長)訓示



射撃命令を伝達する第1特科隊



攻撃前進をする第34普通科連隊

第1師団連隊を基幹とした戦車部隊及び野戦特科部隊を含む諸職種協同の第34戦闘団(戦闘団長第34普通科連隊長)を編成した。そして令和4年度北海道訓練センター(HTC)訓練第3次運営に参加させることにも、本訓練の場を活用して第34普通科連隊訓練検閲を実施し、

その指揮幕僚活動及び練度を評価・判定した。HTC訓練に先立ち、8月5日から10日までの間、34普通科連隊及び配属協同部隊はそれぞれの所在駐屯地から上富良野演習場まで長距離機動訓練を実施した。現地到着後、部隊は16日まで同演習場においてHTC訓練に向け

た事前訓練を実施した。34普通科連隊は17日、矢野別演習場に転進し、18日夕方から19日午前中の間、検閲課題で示された約40キロの徒歩行進を実施した。21日、戦闘団は編成を

完了し、統裁官は「勝利への執念」を要望するとともに留意すべき3点として「各級指揮官の企図の徹底」「重要目標の早期撃破」「非戦闘損耗の局限」を示した。22日深夜、状況開始とともに戦闘団は情報部隊等を進入させ、24日から先遣中隊の攻撃前進を開

始した。戦闘団は27日夕、敵警戒部隊を概ね駆逐したものと評価し、28日、第一線陣地に対する攻撃を開始、同日戦闘団の中間目標を奪取した。29日深夜、戦闘団長は戦闘団攻撃命令を下達、翌朝から30中隊を並列して南側から敵陣地に對して攻撃するとともに、10中隊に北側林内を迂回させ、戦闘団目標であった円山一帯を急襲奪取して、その任務を完了した。

統裁官は講評において「HTC訓練の運営は第9次となるが、攻撃部隊が戦闘団目標を奪取したことは初の快挙であり、第34戦闘団がHTC訓練の歴史に新たな1ページを刻んだことを誇りに思う。今後もより一層訓練に励んでもらいたい」と述べた。

34戦闘団は31日、編成を解組するとともに、9月1日、34普通科連隊は演習場に転進し、06時き弾及び81mm迫撃砲射撃、手りゅう弾投てき等の各種訓練を実施し、9月6日から10日にかけて長距離機動訓練を行って、全訓練内容を完遂、板妻駐屯地へ帰隊した。



障害処理をする第1施設大隊



34戦闘団のヘリボン攻撃をする第1飛行隊



円山台を奪取した34戦闘団



第34戦闘団任務完遂記念

第43回九都県市合同防災訓練 関係機関との連携を強化

師団は8月28日及び9月4日、九都県市合同防災訓練に参加した。本訓練は大規模震災等における関係機関等との連携を維持・強化する目的で実施された。



消防と連携して搬送する第1普通科連隊



偵察する第32普通科連隊

偵察する第32普通科連隊は、本訓練は関係機関等との連携を維持・強化する目的で実施された。師団は今回の防災訓練を通じて、自衛隊に対する信頼感を醸成するとともに地域住民の防災意識の高揚に寄与した。

第1普通科連隊は東京都品川区西大井広場公園において、救出救助訓練

及び装備品展示を行った。第32普通科連隊は埼玉

県北本市北本総合公園に

おいて倒壊建物からの救出訓練を、また同県さい

部隊相談員練成訓練を実施 心の相談窓口の要員を練成



グループ実習

師団は8月23日から26日までの間、練馬駐屯地において令和4年度部隊相談員17人が参加した。訓練では中隊等における隊員からの相談対応及び自己管理能力の向上のため、メンタルヘルス施策、各種ハラスメント対処、傾聴の基本技法、個人的及び組織的ストレス対処法等を教育した。これにより部隊相談員として必要な軽易な相談対応

や各種専門窓口への繋ぎに関する技能向上を図った。

参加した第1師団司令部付隊の魚永2曹は「隊員の皆さんそれぞれ大小のストレスはあると思います。今回の練成訓練で得たことを率先して行うというよりも、何気ない普段の会話から自然に活用できるようにしたいです」と今後の抱負を述べた。

優秀隊員表彰「表彰」		
【第34普通科連隊】(第四級賞詞)	本部管理中隊	藤田一樹 士長
	第2中隊	谷員大輔 士長
	第3中隊	福井佑斗 曹長
	第4中隊	諏訪貴巳 曹長
	第5中隊	小島晃昇 曹長
【第1施設大隊】(第五級賞詞)	第3中隊	高橋佑磨 1士
【褒賞】	【第34普通科連隊】	
	本部管理中隊	新山奎介 3曹
	第1中隊	水口政秀 3曹
	同	守屋利勝 曹長
	第3中隊	岩屋賢志 3曹
	重迫撃砲中隊	野本拓夢 3曹
【第1普通科連隊】	第3中隊	関光佑 1曹
【第1特科隊】	第3中隊	本間蒼志 士長
【第72戦車連隊】	第5中隊	太田哲平 士長
【第5施設群】	第390施設中隊	中村勇斗 3曹
【第1高射特科大隊】	指揮情報中隊	伊藤雄理 2曹
【第1通信大隊】	第1中隊	飯島隆 3曹
【第1後方支援連隊】	第3普通科直接支援中隊	前田涼平 3曹

第12旅団

防災関係機関との連携を強化

災害対処能力の向上を図る



被災者を救助する第12後方支援隊の隊員

旅団は9月10日、西毛運動公園（群馬県安中市）において群馬県及び安中市が主催する令和4年度群馬県総合防災訓練に第12ヘリコプター隊、第12後方支援隊、第12偵察隊及び第12化学防護隊を参加させた。

訓練は震災対応訓練及びテロ対策訓練に区分して実施され、震災対応訓練では、旅団が災害派遣要請を受け、12偵がオートバイで災害情報収集を実施し、無線で状況を報告した。また火災が山林に拡大したのを受け、12ヘリのCH-47が空中消火を実施した。さらに土砂災害からの救出・救助の場面では、12後支が土砂に埋もれた車両から被災者を救助し、応急救護をしつつ、応急救護所への患者搬送を実施した。テロ対策訓練では成分不明の有毒物質が散布された想定で実施され、12化防が汚染地域の



除染作業中の第12化学防護隊の隊員

偵察、除染及び除染後の検知を実施した。旅団は本訓練を通じ、防災関係機関との連携強化及び災害対処能力を向上させるとともに、県民の防災意識の高揚に寄与した。

対空戦闘能力を向上

六ヶ所対空射撃場で重機関銃射撃



12.7mm重機関銃を射撃する隊員

旅団は9月14日から22日までの間、六ヶ所対空射撃場（青森県）において射撃練度の向上を図る目的で、令和4年度12.7mm重機関銃（HMG）対空実射訓練を実施した。本訓練は第30普通科連隊長を担任官として行い、良好な訓練基盤の下、参加隊員は練成を重ねた。9月16日には現地指導に訪れた旅団長に対し、練成成果を遺憾なく発揮する等、多大な成果を収める訓練を締めくくった。

旅団は本訓練で得た成果を総括して共有し、旅団全体の対空戦闘能力向上につなげる。

13普連

第3次旅団訓練検閲を視野に演練 指揮幕僚活動及び運用能力を向上



第13普通科連隊の指揮所

第13普通科連隊は8月27日から9月2日までの間、指揮所訓練センター（朝霞駐屯地）において



現地指導する旅団長（写真右）

実施された令和4年度第3次旅団指揮所訓練センター訓練に参加した。本訓練は指揮所訓練統制支援システムを用いた指揮所訓練により、連隊本部以下の指揮幕僚活動及び運用能力を向上させる目的で、陣地防御における増強普通科連隊の指揮幕僚活動及び諸職種協働に係る調整を主要演練項目として実施した。また第3次旅団訓練検閲を目前に控えた13普連にとって、指揮幕僚活動及び運用能力を向上させる絶好の練成の場となった。

8月31日には旅団長が現地指導に赴き、訓練の状況を確認するとともに、各訓練場所において隊員を指導・激励した。

13普連は指揮幕僚活動及び運用能力を向上させることともに、後に控えた訓練検閲へ向け万全の態勢を整えることができた。

募集対象者及び協力者等に対し体験搭乗 防衛基盤の拡充に寄与

旅団は9月10日、相馬原飛行場においてCH-47による体験搭乗を実施した。



体験搭乗を思い思いに楽しむ参加者

募集対象者等390人に、新たな自衛隊志願者、入隊者の獲得に資する目的で実施された。また本行事は、旅団司令部、相馬原駐屯地、新町駐屯地、吉井分屯地、自衛隊群馬地方協力本部及び自衛隊長野地方協力本部が合同で実施した。

当日は天候が危ぶまれたものの、フライトの間には青空が見えるほどに回復し、第12ヘリコプター1隊のCH-472機



装備品展示会場で見学や隊員へ質問する参加者

により全26フライトを整齊円滑に実施することができた。体験搭乗を終えた参加者からは「自衛隊がもっと好きになった」という声が多数聞こられた。また募集対象者からは「自衛隊に興味をもちたい」という声も聞かれた。

旅団はコロナ禍においても感染症拡大防止に万全の対策をとりつつ、広報活動を継続していく。

第30回全日本銃剣道選手権大会 優勝

第12特科隊第1中隊 3等陸曹 藤原考貴



第12特科隊第1中隊 藤原 3曹は8月5日、日本武道館において開催された高松宮杯争奪第30回全日本銃剣道選手権大会に出場し、個人戦で見事優勝を果たした。（写真）

大会には各都道府県の代表58選手が出場し、藤原3曹は初戦から決勝まで一本も奪われない磐石の戦いぶりで見事優勝を挙げた。

藤原3曹は「前大会では初戦敗退に終わり大変悔しい思いをしたので、今回は絶対に記録を残すことを目標に頑張りました。優勝を勝ち取ることができました。今後は自分自身の練習の維持向上及び後輩の育成に尽力していきたいと思っております」と優勝の喜びをかみ締めるとともに、次なる目標への意欲を力強く語った。

第1施設団

北方協同架設訓練

独立して行動する架橋中隊の練成

第101施設器材隊 協同連携能力、各級指揮官の指揮能力及び渡河に日までの間、南恵庭駐屯地、茨戸川渡河訓練場及び江別渡河訓練場(いずれも北海道)で中隊間の

本訓練では第3施設団隷下の第105施設器材隊架橋中隊(南恵庭駐屯地)と協同し、相互の92式浮橋を合わせて計2コセットを用いた。茨戸川

は川幅160メートルにも及ぶ大河川であったため、相互の浮橋を接続させる要領での渡河作業となった。

101架橋中隊は装備する92式浮橋を使用し、重門橋の構築・運航を行うとともに105架橋中隊と密接に連携し、浮橋を架設することができ、所望の成果を得て訓練目的を達成した。



浮橋の架設準備



橋間橋節の回航



浮橋の架設

新隊員後期教育終了 施設特技を修得し部隊配置



直柱と横材の結束(第4施設群)



起爆準備(第5施設群)

施設団は7月4日から9月16日までの約3カ月

間、第4施設群43人、第5施設群25人に対する新設及び一般陸曹候補生

課程後期(施設)教育を実施した。

この間、隊員たちは施設科の基礎である土工・木工・植杭・連結・重材の取扱、漕舟・爆破等の各課目を履修し、施設科隊員として必要な知識・技能を修得して各部隊へ配属された。



訓話を行う処長

教育は関東処の概要に始まり、不測事態時等計画の概要、業務計画、サービス・物品管理、情報管理及び特別

新着任者に対して 勤務共通事項を教育

関東処は8月30日、霞ヶ浦駐屯地において新着任した隊員を対象として、令和4年度第2回

新着任者教育を実施した。本教育は新着任者に対し、関東補給処勤務に当たり必要な共通事項を認識させ、今後の業務遂行の資とする

ことを目的としている。教育は関東処の概要に始まり、不測事態時等計画の概要、業務計画、サービス・物品管理、情報管理及び特別

関東補給処

陸曹候補生選抜1次試験

練成成果の全てを発揮



学科試験に臨む受験隊員

関東処は9月6日、霞ヶ浦駐屯地において令和4年度後期陸曹候補生選抜1次試験を実施した。1次試験の内容は筆記試験及び体力検定であり、新型コロナウイルス感染症及び熱中症対策を徹底しつつ実施された。



力強い走りだしを見せる受験隊員

本処及び各支処等の受験資格を持つ隊員は、担任官に対し講堂で開始申告を実施したのち、合格を目指して試験に臨んだ。午前中に行われた筆記試験では一般教養及び職務(自衛隊法、サービス及び戦闘行動等)から広範囲にわたる出題され、机に向かう受験隊員からは静かな気迫が感じられた。

られ、定められた実施基準に基づき厳格に記録を測定した。陸曹教育隊さながらの緊張感が漂う雰囲気の中で、受験隊員は日ごろの体力練成の成果を存分に発揮していた。

も真剣さが感じられた。本試験は終了申告をもって全日程を終えたが、受験隊員は来る2次試験に向けて、気を緩めることなく練成に励んでいく。

ウクライナへの
装備品等の提供
に係る関東補給
処の活動状況を
アップしました。

霞ヶ浦駐屯地
公式ホームページ
https://www.mod.go.jp/
gsdt/eae/eadep

必要な知識・技能 入校前に再確認



上曹の心構えを学ぶ被教育者

被教育者は意欲的な姿勢で戦術、幕僚見積、前衛概説等を修習し、必要な識能の向上に努めていた。

上曹履修前

関東処は8月29日から9月2日までの間、霞ヶ浦駐屯地において令和4年度陸曹上級課程履修前教育を実施した。

大会運営 縁の下の力持ち トライアスロンフェスタ支援



より自衛隊に対する親近感及び協力気風の醸成に寄与することができた。

霞ヶ浦駐屯地は9月18日、茨城県土浦市で開催された「第3回霞ヶ浦トライアスロンフェスタ」に、関東処所属隊員3人を派遣し、これを支援した。本大会は霞ヶ浦及び土浦市内にコースが設定されているトライアスロンで、今年で3回目の開催となる。派遣隊員は大型トラックで水タンクをけん引し、給水支援を実施することで競技者をサポートし、大会運営の成功に貢献した。これにより自衛隊に対する親近感及び協力気風の醸成に寄与することができた。

シ通群

首都防衛における作戦遂行能力向上 東方管内各地で群訓練



映像伝送のための飛行経路の確認

東部方面システム通信群は9月8日から15日までの間、東方管内の各駐分屯地、習志野演習場及び部外中継所に展開して令和4年度第4回群訓練を実施した。本訓練では基地通信組



無線機を点検する隊員

織を基盤に、首都防衛に当たる部隊へのシステム通信の提供及び情報収集のためのヘリコプター攻撃等に対する対処訓練を実施した。

また第105指揮所通信大隊と第304中樞交換通信中隊の2つの野外部隊を一元的に運用することにより、作戦遂行能力を向上させるため、指揮所通信大隊長を長とする「野外通信隊」を編成し、野外システム通信組織を構成・維持・運営した。群は引き続き各駐分屯地における常統不



協定書に署名する駐屯地司令と有吉会長



協定書を手にする駐屯地司令と有吉会長

立川駐屯地 関東学連と協定 箱根駅伝予選会を支援

立川駐屯地は9月13日、駐屯地において「第99回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会」を開催した。調印式は10月15日に開催された予選会について、関東

学生陸上競技連盟と敷地の使用に関する協定を結んだ。調印式前に関東学連の有吉会長と懇談が行われ、有吉会長は「駐屯地の支援のおかげで、コロナ禍の2年間でも予選会を実施できた。改めて感謝したい」と話した。駐屯地司令

は「応援を受けてこそ、選手はより実力を出せると思う。思い切って実力を出してほしい」と激励した。立川駐屯地は毎年、敷地の提供、管理支援を協力している。昨年、一昨年は駐屯地内の周回コースで実施されたが、今年3年ぶりに新型コロナウイルス感染症拡大前と同様の市街地コースとなる。予選会はハーフマソンであり、立川飛行場をスタート地点とし、市街地を経由して国営昭和記念公園でゴールとなるコースとなった。

今年も学生たちの熱いバトルが繰り広げられ、立川が大いに盛り上がった。

後支隊 武器科新隊員集立つ 後期教育修了部隊配置へ



助教の説明を熱心に聞き取る新隊員

東部方面後方支援隊は9月16日をもって、令和4年度新隊員特設課程「武器」及び一般陸曹候補生支援大隊を基幹として、課程後期「武器」教育の後期教育を修了した。教育隊は第104全般



工具の説明を受ける新隊員

陸上総隊、武器学校、師団、旅団、関東外等から支援を受け、計32人の教育要員を臨時に編成し、え装備、火器並びに弾薬の基本特技を教育した。この際、教育隊長の要望事項である「徹底した基



教育修了式の様子

教育担当である第104全般支援大隊長 緒方2佐は修了式において「諸官74人は苦楽を共に

新隊員74人に対して7月1日から教育修了までの約2カ月半にわたり教育を実施した。内容は工具、計測及び部品作成の共通科目に加え、基礎動作の追求に留意し、陸士として必要な資質だけでなく社会人としての常識やマナー、躰事項等についても指導が行われた。

混成団

31普連が県内各地で防災訓練 関係機関と連携強化



オートバイによる被害状況の確認
(横浜市総合防災訓練)

第31普通科連隊は神奈川県内各地で毎年実施されている防災訓練に参加した。横浜市立富岡東中学



倒壊家屋からの患者搬送(川崎市総合防災訓練)

本部管理中隊は8月21日、横浜市立富岡東中学



軽装甲機動車等の
装備品展示
(鎌倉市総合防災訓練)

は9月4日、川崎市消防訓練センターで実施された「川崎市総合防災訓練」に小又1尉以下22人(即応予備自衛官14人含む)が、第4中隊は8月23日、鎌倉市山崎浄化センターで実施された「鎌倉市総合防災訓練」に屏風3佐以下25人(即応予備自衛官16人含む)が、重迫撃砲中隊

は9月4日、川崎市消防訓練センターで実施された「川崎市総合防災訓練」に小又1尉以下22人(即応予備自衛官14人含む)が、第4中隊は8月23日、鎌倉市山崎浄化センターで実施された「鎌倉市総合防災訓練」に屏風3佐以下25人(即応予備自衛官16人含む)が、重迫撃砲中隊

31普連は今回の訓練を通じて、各自自治体、警察、消防及びその他の防災関係機関との連携を強化するとともに、災害対処能力を向上させた。

防大の魅力伝えたい！ 未来の幹部自衛官にアドバイス

自衛隊群馬地方協力本部高崎地域事務所は8月8日、防大生6人の支援を受け、防大説明会を実施した。本イベントを支援した防大生たちは、過去に高崎所の防大説明会に参加して合格入校した学生であり、自身がサポートを受けて合格できたことから、恩返しをしたいと毎



勉強方法を熱心に話す防大男子学生(右側)



学内生活を説明する防大女子学生(右側)

回支援に来てくれている。説明会当日は受験生9人、保護者3人の計12人が参加した。防大生は個々に自己紹介の後、防大の魅力を紹介した。また個別相談会では男子学生と女子学生に分かれて勉強方法や学内生活等の質問に答え、受験生等の不安解消に努めた。

高崎所の説明会は女子受験生の参加者が比較的多く、今年は2人の防大女子学生の支援を受けた。女性活躍推進の面からも女子受験生獲得のための大きな戦力となった。

最後は恒例の受験生と防大生の連絡先交換を行い、受験生からは「受験勉強の方法を直接アドバイスを受けることができる」「この説

明会に参加すると合格するというジンクスがある」と好評であった。防大4年生 柳澤学生は「今回で支援も最後となる。次の代に引き継いでいきたいと思います。群馬地本高崎所は今後

長野地本 合同企業説明会事前教育 再就職への不安を払拭

自衛隊長野地方協力本部は8月23日、松本駐屯地において長野県任期制隊員合同企業説明会の参加者に対する事前教育を実施した。

本教育は長野県任期制隊員合同企業説明会に参加する隊員に対して、



ネクタイの結び方を実演する隊員

加する隊員に対して、参加企業の説明等を実施し、面談希望企業の選定に資することを目的としているもので、今年度は19人の隊員が参加した。

午前中はビジネスマナー教育として、部外講師によるスーツの着こなし方や面接の際に気を付けるチェックポイント、社会人として守るべきマナー等の教育を実施した。

一人一人の志願を大切に各種説明会を実施し、質の高い学生を獲得していきたい」と話した。

加する隊員に対して、参加企業の説明等を実施し、面談希望企業の選定に資することを目的としているもので、今年度は19人の隊員が参加した。

午前中はビジネスマナー教育として、部外講師によるスーツの着こなし方や面接の際に気を付けるチェックポイント、社会人として守るべきマナー等の教育を実施した。

神奈川地本 アメフトリーグとコラボし 地域に貢献

自衛隊神奈川地方協力本部川崎出張所は9月10日、富士通スタジアム川崎(神奈川県川崎市)に



において、アメリカンフットボール・Xリーグ所属の富士通フロンティアースとコラボレーションした。富士通フロンティアースはスポーツを通して社会課題の解決を目指し、健康で豊かな未来の実現に向け、SDGs達成への取り組みを積極的に推進している。

川崎出張所は当日、試合開始前にラゾーナ川崎プラザから富士通スタジアム川崎までの間を



ゴミ拾いをする隊員

多機能トイレ・道路整備などの重要性を知ることができ、さらにはゴミを拾うことにより、地域に貢献することができた。

スタジアム近くの自衛隊ブースでは、軽装甲機動車・高機動車・偵察用オートバイの展示・搭乗、制服・迷彩服の試着体験、南極の水展示で賑わいを見せ、自衛隊を身近に感じてもらおうと、ハーフタイムでは富士通チア

川崎出張所では「今後、地域に密着した様々なイベントに参加し、自衛隊をより知ってもらい、自衛隊の理解促進につながる広報活動を継続していく」としている。

多機能トイレ・道路整備などの重要性を知ることができ、さらにはゴミを拾うことにより、地域に貢献することができた。

スタジアム近くの自衛隊ブースでは、軽装甲機動車・高機動車・偵察用オートバイの展示・搭乗、制服・迷彩服の試着体験、南極の水展示で賑わいを見せ、自衛隊を身近に感じてもらおうと、ハーフタイムでは富士通チア

川崎出張所では「今後、地域に密着した様々なイベントに参加し、自衛隊をより知ってもらい、自衛隊の理解促進につながる広報活動を継続していく」としている。

茨城地本 もしもの備えに「防災フェア!!!」 蝶野氏と自衛隊をPR



蝶野 正洋氏との記念撮影

自衛隊茨城地方協力本部土浦地域事務所は9月3日及び4日、茨城県つくば市内の大型商業施設において防災フェアに参加した。

両日ともに第101全隊支援隊の大型トラック、水トレーラ及び野外炊事車を展示した。

初日の屋内ステージイベント「蝶野 正洋と学ぶ防災テクニク」で

は、司会者の「自衛官の自宅では地震に備え、あつちの空にしないようにしています。そのあつちとは何でしょうか?」との質問に「貯金スライの蝶野氏が「貯金箱」と答えると、会場は笑い声に包まれたが、土浦所長が「貯金箱も大切ですが、お風呂の水です」と答えると、会場の雰囲気が一変し、真剣な

表情でメモを取る来場者の姿が見られた。

翌日の「救命救命を体験しよう」では、衛生職種の県南地区援護センター長及び土浦所広報官による「止血講座」を行った。また併設したミニ制服試着コーナーも人気で、長蛇の列となった。

土浦地域事務所はこれからも積極的に様々なイベントに参加していく。



多くの子どもたちが来場した自衛隊ブース

自衛隊静岡地方協力本部富士地域事務所は8月20日及び21日、ふじさんめっせ(静岡県富士市)で開催された「キッズジョブ2022」に参加した。

これは富士市産業交流部とふじさんめっせが共催したもので、幼児及び小学生を対象に「仕事を体験して、学んで未来の自分をみつけに行こう」ということを趣旨としている。過去2年は新型コロナウイルス感染症の影響により中止が続いていたため、3年ぶりに開催することができた。

会場には働くクルマ体験エリア、お仕事体験エリア、ものづくり体験エリア、商店街体験エリアが設置され、30以上の企業が各エリアに出展した。

富士所は働くクルマ体験エリアに自衛隊の小型トラック、中型トラック及び偵察用オートバイを展示し、自衛隊の仕事について説明するとともに、子どもたちからの質問等に答えた。

富士所は今後も地域のイベントで自衛隊の活動や魅力を発信するとともに、自衛隊を身近に感じることができるような広報活動を実施していく。

また子ども用迷彩服試着コーナーも設置し、自衛官気分の子供たちが楽しそうに車両の座席や荷台部分に乗り込み、車両の大きさやバイクの高さを体感した。

子どもたちからは「このバイクはどんな時に使いますか?」「荷台には何人乗れますか?」「自衛隊に入りたい!」「どうしたらなれますか?」といった質問が寄せられる等、自衛隊のブースは列ができるほど賑わいを見せ、「来年も来てほしい」とうれしい言葉を受けた。

静岡地本 キッズジョブ2022に参加 多くの子どもが来場

自衛隊静岡地方協力本部富士地域事務所は8月20日及び21日、ふじさんめっせ(静岡県富士市)で開催された「キッズジョブ2022」に参加した。

これは富士市産業交流部とふじさんめっせが共催したもので、幼児及び小学生を対象に「仕事を体験して、学んで未来の自分をみつけに行こう」ということを趣旨としている。過去2年は新型コロナウイルス感染症の影響により中止が続いていたため、3年ぶりに開催することができた。

会場には働くクルマ体験エリア、お仕事体験エリア、ものづくり体験エリア、商店街体験エリアが設置され、30以上の企業が各エリアに出展した。

富士所は働くクルマ体験エリアに自衛隊の小型トラック、中型トラック及び偵察用オートバイを展示し、自衛隊の仕事について説明するとともに、子どもたちからの質問等に答えた。

富士所は今後も地域のイベントで自衛隊の活動や魅力を発信するとともに、自衛隊を身近に感じることができるような広報活動を実施していく。

また子ども用迷彩服試着コーナーも設置し、自衛官気分の子供たちが楽しそうに車両の座席や荷台部分に乗り込み、車両の大きさやバイクの高さを体感した。

子どもたちからは「このバイクはどんな時に使いますか?」「荷台には何人乗れますか?」「自衛隊に入りたい!」「どうしたらなれますか?」といった質問が寄せられる等、自衛隊のブースは列ができるほど賑わいを見せ、「来年も来てほしい」とうれしい言葉を受けた。

するとともに、援護担当者企業訪問等で直接見聞きした情報や職場の雰囲気等を交えて説明を行い、企業に対するイメージアップを図った。特に教育参加者からは「スーツの着こなし方や面接各隊員に配布した「合同企業説明会参加企業情報」の冊子については、企業の業務内容やアピールポイント、OB隊員の声等が記載されており、企業の情報がすぐわかる」と好評であった。

教育参加者からは「スーツの着こなし方や面接

にふさわしいスーツの選び方は学ぶ機会が少なく、とても勉強になった」と「再就職を希望する企業への詳しい説明を聞くことで、実際に働くときのイメージをつかむことができ、再就職への意欲が高まった」などの感想が寄せられた。

長野地本は自衛隊新卒として希望する企業へ再就職できるよう、今後も引き続き親身な就職の援助を実施していく。

高まった」などの感想が寄せられた。

長野地本は自衛隊新卒として希望する企業へ再就職できるよう、今後も引き続き親身な就職の援助を実施していく。

高まった」などの感想が寄せられた。

長野地本は自衛隊新卒として希望する企業へ再就職できるよう、今後も引き続き親身な就職の援助を実施していく。

最上級曹長

『指揮官の補佐者』として 東部方面隊 大久保 剛 准陸尉



東部方面管内の皆様、こんにちは。この度第7代東部方面隊最上級曹長を拝命した大久保准尉です。

出身は埼玉県秩父市で

す。原隊は第1普通科連隊、その後、第1師団司令部、第34普通科連隊、そこで先任上級曹長、最上級曹長として勤務してまいりました。

私は今後、指揮官の補佐者として部隊の現況把握に力を入れ、部隊の現状、問題点、現場で困っている生の声を聴いて行

きたいと思えます。その中で「できる、できない」はありますが、皆のパイプ役として指揮官へ伝えて行こうと思えます。

現在の職に至るまで、中隊の先任、連隊の最上級曹長、師団最上級曹長を務めたが、部隊規模が大きくなるにつれ隊員たちとの距離が遠くなり、情報も入ってきづらくなります。

そのため各部隊の最上級曹長と一緒に現場へ足を運ぶことを重視して、そこで「挨拶プ

ラス一言を掛けながら、指揮官の見えない所を把握し、届けていきたいと思えます。これから、幾度となく試験も待ち受けていると思えますが、指揮官の色に染まりつつ、自分が成長するためにふりかかるとも「神様が与えてくれた試験だ」とプラスに考え置かれた立場で咲けるよう「笑顔と自分らしさ」をモットーに補佐道に精進し、精一杯「強靱な東部方面隊の創造」に尽力したいと思えます。

きいたと思えます。その中で「できる、できない」はありますが、皆のパイプ役として指揮官へ伝えて行こうと思えます。

現在の職に至るまで、中隊の先任、連隊の最上級曹長、師団最上級曹長を務めたが、部隊規模が大きくなるにつれ隊員たちとの距離が遠くなり、情報も入ってきづらくなります。

そのため各部隊の最上級曹長と一緒に現場へ足を運ぶことを重視して、そこで「挨拶プ

ラス一言を掛けながら、指揮官の見えない所を把握し、届けていきたいと思えます。これから、幾度となく試験も待ち受けていると思えますが、指揮官の色に染まりつつ、自分が成長するためにふりかかるとも「神様が与えてくれた試験だ」とプラスに考え置かれた立場で咲けるよう「笑顔と自分らしさ」をモットーに補佐道に精進し、精一杯「強靱な東部方面隊の創造」に尽力したいと思えます。

でも良い経験をすることができました。

最後の5カ月間は、女性の進学の関係で茨城県と広島県で家族と離れた生活となりました。初の単身赴任生活は充実した反面、家に帰るととろとろしくなり家族のありがたみを感じたのを記憶しています。

家族には環境の変化による負担を掛けましたが、それ以上に良い経験ができたと思っています。

これからも3年間で深まった家族の絆を糧に、日々まい進していきたいと思えます。

最後に2人へいつもありがとう。

「諦めない気持ち」 第32普通科連隊 青木 千乃 1等陸士

今月のフェアレディは第32普通科連隊の青木1等陸士です。

群馬県高崎市出身の青木1等陸士は、昨年4月に入隊、教育終了後、重迫撃砲中隊に配属となり、有線通信手として、日々訓練に励んでいます。

Q1・自衛隊に入隊したきっかけは？

中学生の時に行われた職業体験で自衛隊に行き、その時に見かけた女性隊員が多数の男性隊員の中で堂々と振る舞っている姿に憧れました。その

Q2・現職種を希望した理由は？

陸上自衛隊らしさがある職種だと感じたからです。また新隊員前期教育区隊長が普通科だったので、たくさん話を聞かせていただき魅力を感じました。そして男性隊員に負けない体力と精神力を鍛えたいと思ったからです。

Q3・好きな言葉は？

「できるまでやればできる」です。初めからできないと思ってしまうのではなく、失敗して何事にもめげず挑戦し続けようと思えます。

Q4・思い出深い訓練や事業は？

初級ネットワークの教育中に行った結線作りです。私はいくらでも器用なので、当初は時間をかけても上手に作るつもりでしたが、教官からアドバイスをもらい、何度も繰り返し練習をしていくうちに、教育が終わる頃にはとてもきれいな結線を作れるようになりました。その時はとても大きな達成感を得ることができました。



「筋肉と共に」 第302救急車隊 石田 顕一 3等陸曹

今月の東方男児は、東部方面衛生隊の石田3曹です。

石田3曹は東京都出身の27歳で、妻、長男、次男の4人家族です。平成25年に入隊し、現在は第302救急車隊で勤務しています。

Q1・自衛隊に入隊したきっかけは？

学生時代から国防に携わりたいと考えており、陸上自衛隊に入隊しました。

Q2・現職種を希望した理由は？

家族に医療従事者がおり、医療を通して人の役に立ちたいと考え、衛生科を選びました。

Q3・現在の任務は？

衛生救護陸曹として勤務し、救護支援、衛生器材の補給業務等を行っています。また後輩指導では活模範となるよう自身が日々精進するとともに、後輩が後悔しないよう



Q4・趣味は何ですか？

ウェイトトレーニングです。持久力だけでは有る事においては役に立たないと思ひ取り組みはじめ、自身の成長を著しく実感しています。また数年前にボディビル大会に出場した中山翔二選手（なかやまきんに君）の動画を見て感動し、自分も競技を通して人を感動させたいと思ひました。

Q5・今後の目標は？

格闘指導官になりたいです。衛生科隊員としてスキルを身に付けるとともに戦技も習得すること、いかなる任務にも対応できる隊員を目指しています。私生活ではボディビル（フィジック）競技の県大会で優勝し、全国大会に出場することです。

Q6・最後に一言

筋肉は裏切らない！筋肉を裏切ってははいけません！

筋肉の鍛え方を伝えた石田3曹の今後の活躍が楽しみです。

Q5・今後の目標は？

女性自衛官教育隊で班長になることです。前期教育でお世話になった班長が、人として凄く素敵で、私に知識や技術を身につけて、前期教育の班長のように誰かから尊敬される人になれるように日々精進していきます。

何事にも明るく元気に挑戦する青木1等の今後の活躍に期待します。

Q4・趣味は何ですか？

ウェイトトレーニングです。持久力だけでは有る事においては役に立たないと思ひ取り組みはじめ、自身の成長を著しく実感しています。また数年前にボディビル大会に出場した中山翔二選手（なかやまきんに君）の動画を見て感動し、自分も競技を通して人を感動させたいと思ひました。

Q5・今後の目標は？

格闘指導官になりたいです。衛生科隊員としてスキルを身に付けるとともに戦技も習得すること、いかなる任務にも対応できる隊員を目指しています。私生活ではボディビル（フィジック）競技の県大会で優勝し、全国大会に出場することです。

Q6・最後に一言

筋肉は裏切らない！筋肉を裏切ってははいけません！

筋肉の鍛え方を伝えた石田3曹の今後の活躍が楽しみです。

引越準備の忙しさに加えて、異動先も西日本豪雨の直後だったため、家族の不安は相当大きかったです。しかし時間とともに自然と部隊に慣れ、人に慣れ、地域に慣れ、笑顔で充実した日々を送る家族を見て安心したのを思い出します。

1年が過ぎる頃には、家族の会話に広島弁が飛び交うようになり、地元球団の広島東洋カープの応援のため野球場へ行くなど、3年間で広島のみならず、さまざまな歴史・文化を楽しまれました。また四国や日本海方面にまで足をのばし茨城県と違う風土に触れる事で、家族3人と

編集後記

小学生の息子の頬にマスクの日焼けの跡ができていた。最近、運動会でも踊る「よさこい」の練習に励んでいると妻から聞いた。休日の朝、機嫌がいいとソラノ節の鼻歌まじりで得意げに披露してくれる。息子の学校でも今年は校外学習や各種催し物を行える環境になってきた。運動会は保護者の入場制限も止め、平常に近いかたちで実施するという。学校もさまざまな努力の末にようやくここまでたどり着いた。学校の制限が緩むにつれて、わが家の子どもたちも生き生きはじめるように思う。

新型コロナウイルス感染症は、人類に耐えがたい幾多の苦難をもたらした。生活様式は激変し、リモートワークが普及、オンラインでの会議や授業も当たり前になった。その一方で、人と会うことが極端に減った。人付き合いに距離感があることは気楽だが、自分と異なる意見や立場を受け入れる機会が減ってしまったような気がする。子どもたちにも与えた影響は計り知れない。楽しそうに踊っている息子に「うまいじゃん。カッコいいよ」とはやすと急に恥ずかしがりやめてしまった。余計なことを言ったと悔やんだ。コロナ禍でこの数年は運動会を見ていない。明るい兆しが差しはじめた今年こそ、必ず見届けようと心に誓った。同級生たちとの競走と共演、息子の渾身の「よさこい」を。